

令和5年度第1回学校運営協議会会議録

4 (1) 役員選出について

会長 : P T A会長 斎藤 芳里 様  
副会長 : 北上工業クラブ会長 佐藤 満義 様

(2) 本校の経営計画について (司会 : 会長である P T A会長様)

委員 : 今年度の『重点目標ウものづくり人材の育成と専攻科の充実』  
の中の『資格取得』について  
昨年度国の資格申請に対する補助金が打ち切りとなった。その  
ことにより受験者数が一昨年よりかなり減少した。申請者数が  
減少することで合格者数も減少している。5月に国からの提言  
がありうるかもしれないが、現在どのような状況であるか教え  
てほしい。

学校 : 技能検定について、国からの補助はなし。高校生1種目で  
14,000 ~ 15,000 円をかけて受検することになる。

学校 : 『学校案内』のジュニアマイスター顕彰制度に受検者減の影響  
がでている。

学校 : 全国工業部会に継続して補助の要望をしていく。  
県の校長会で県教委に対して県からの補助をお願いしている。

《 経営計画承認 》

(3) その他

学校 : 学校運営協議会は県へ意見を提出できる組織である。本校の運  
営協議会から北上市へ要望することを提案したい。  
『高等学校卒業予定者の就職に関わる支度金等経済的支援に  
ついて』要望したい。

《文面を読む》

このような要望書を北上市に提出することはどういうものか。

委員 : 保育士への支援策があったような記憶がある。  
働く者に対して北上市は補助をしている。

- 委員 : ここ数年少子化で高校を卒業する生徒数が減少している中で求人が増えてきている。求人倍率2倍と深刻な人手不足である。支度金については予算化・事業化とするのはハードルが高い。要望書は内容を受けとめて検討したい。
- 学校 : 進学者への支援は厚いが、地元就職する高校生への支援は薄い。
- 委員 : 文面については、持ち帰って相談したい。
- 委員 : 校長先生の思いは伝わるが、北上市に就職する人材を確保するのが目的なのか、黒工に入学すれば支援がある、それを目玉として取り組んでいくことが目的なのか、で文面の書き方が違ってくる。どちらを狙いとするのかを吟味してもいいのでは。
- 委員 : 文面ができあがった際には、皆様に見ていただき、相談したい。また、提出するか否かについても皆様と協議したい。
- 学校 : 岩手県教育委員会では『県外募集』という制度がある。本校でも始めたいと考えている。オンラインでの説明会があったが、要望書の申請が説明会の期日から近く、時間がなくて今年度は断念した。申請条件として、住む施設を確保しなければならない。そのためには北上市の全面的な協力を得て住む施設をしっかりと確保することが必要である。例えば、大迫高校では県外募集により6名入学しているが、大迫町内のホテルに食事付きで住んでいる。皆様の中から情報提供をいただきたい。確保できれば令和7年度から申請していく計画である。
- 学校 : 黒工の西北側に「村崎野ハイツ」がある。ここは野球部だけでなく、他の部の生徒も入っている。様々な決めごとがあるので難しい。また、南側には「めぐみ下宿」があり、昨年度までの野球部員以外の部員が入っている。
- 委員 : 県外の生徒はそこに入れないのか。
- 学校 : 一般の方も入居しているので、規制がある。また、黒工のために部屋を確保しているわけではなく、入学生と卒業生とのバランスで部屋の数を調整している。本校の職員がここに住み好意で世話をしている。

委員 : 県外へ親として子供を出す際、周囲の環境がわかってからでないと不安がある。協力体制をお願いしないと難しい。

委員 : 就学支援より宿探し支援の方が実現する可能性が高いような気がする。

学校 : 北上市の全面的な協力が必要である。

P T A会長議長終了

## 5 報告（学校）

「本校の教育活動の現状と課題」

## 6 その他

委員 : 今度の学校運営協議会の際、学校見学を行うのはどうか。

### 【本日のご提言】

委員 : 北上市としても今年度引き続き支援をしていきたい。

委員 : 黒工の問題がこの場で改善できるのであれば考えていきたい。

委員 : 意見申出書の提出をきっかけに新たな道が開かれていく。

委員 : 生徒数が少ないことについて我々は懸念する。生徒数を増やしていければいい。

委員 : 黒工は特色ある活動をしていて、生徒に良い学校だと説明をするし、生徒も体験入学に参加する。しかし、最終的な進路選択の時、普通科志向が強い。その原因はわからない。どうしても黒工＝就職という認識がある。中学生はそこまで考えられない。黒工で勉強すれば良いことがあると中学生だけでなく親や周囲の意識が変わることが望ましい。校長が悩んでいることが黒工の特色となれば大人が反応してくれる。

委員 : 今回初めてであり、黒工の特色がわからないままに参加させていただいた。黒工は様々な取り組みを行い、生徒確保について考えていると印象に残った。地域プロジェクトや出前授業といった良い取り組みを行っている。そこで、本校の先生方にも出前授業の実施について呼びかけて、働きかけていき

たい。

委員 :未来の黒工生が増えていくことが一番。しかし、黒工の魅力が伝わりきっていない。親に理解を求めていくのがベストである。これからも皆様の協力を仰ぎながら取り組んでいきたい。

委員 :黒工の生徒数が減少したのは、魅力が無くなったのではなく、子供が少なくなっているからだ。生徒数を増やす方法は、部活で多くの部が新聞に掲載されることが有効的である。そのためにはどうすればいいのか。部活動指導する先生方も大変ですが、我々もできる限りバックアップしていきたい。